

映画上映会+講演会(参加無料)

すべての子どもに安心・自信・自由を

ドキュメンタリー映画

『みんなの学校』



映画の舞台は大阪市立大空小学校。

この学校には不登校も特別支援学級もない。

でも、安心できる居場所がある。

なぜそんなことができたのか？

それは2月3日にわかります。

やる気スイッチ
入ります

映画に出演されている校長先生講演会

『学校が変われば、地域が変わる。そして社会が変わっていく』

大空小学校初代校長 木村泰子さん

一人ひとりが個性や能力を発揮できるように、か
かわれば、相手を思いやり、認め合うようになる。
そんな奇跡の学校をリーダーとして作りあげた講
師の話から、私たちができることをたっぷり聴きま
しょう(裏面参照)

2 / 3 (日)
2019



第1回上映 : 10:00~12:00

講演会 : 13:00~15:00

第2回上映 : 15:30~17:30

会場 : ときわプラザ (徳島県立男女共同参画交流センター)
ブライダルコアときわホール
(アスティとくしま2階)

参加費無料

要申し込み(どなたでも)

先着各回142名

主催:徳島県

受託団体:CAPとくしま

(1998年発足20周年)



◎問い合わせ・申し込み

080-3163-4542(日下)

momochi@mf.pikara.ne.jp

◎無料託児あります

(1歳から就学前のおこさま)

要申し込み:088-655-4638

(こども室)

講師紹介

木村 泰子 きむらやすこ さん

大阪市立大空小学校初代校長。大阪市出身。武庫川学院女子教育学部短期大学保健体育学科(現武庫川女子大学短期大学部健康・スポーツ学科)卒業。「みんながつくる みんなの学校」を合い言葉に、すべての子どもを多方面から見つめ、全教職員のチーム力で「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことに情熱を注ぐ。学校を外に開き、教職員と子どもとともに地域の人々の協力を経て学校運営にあたるほか、特別な支援を必要とされる子どもも同じ教室でともに学び、育ち合う教育を具現化した。2015年春、45年間の教職歴をもって退職。現在は全国各地で講演活動、取材対応などで多忙な日々。

著書

☆『「みんなの学校」が教えてくれたこと

学び合いと育ち合いを見届けた3290日』(小学館)

☆『大人がいつも子どもに寄り添い、子どもに学ぶ！

「みんなの学校」流・自ら学ぶ子の育て方』(小学館)

☆『タテマエ抜きの教育論 教育を、現場から本気で変えよう！』(小学館) 著者：木村泰子×菊池省三

ドキュメンタリー映画「みんなの学校」

大空小学校がめざすのは、「不登校ゼロ」。ここでは、特別支援教育の対象となる障害がある子ども、自分の気持ちをうまくコントロールできない子ども、みんな同じ教室で学びます。ふつうの公立小学校ですが、開校から6年間、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もしっしょになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげてきました。

すぐに教室を飛び出してしまう子ども、つい友達に暴力をふるってしまう子ども、みんなで見守ります。あるとき、「あの子が行くなら大空には行きたくない」と噂される子が入学しました。「じゃあ、そんな子はどこへ行くの？ そんな子が安心して来られるのが地域の学校のはず」と木村泰子校長。やがて彼は、この学び舎で居場所をみつけ、春には卒業式を迎えます。いまでは、他の学校へ通えなくなった子が次々と大空小学校に転校してくるようになりました。

映画公式サイトより

CAP とくしま (1998年8月発足)

CAP (キャップ) とは Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略

子どもたちが自分の心とからだを大切にするための人権意識を育てると同時に、いじめや虐待・誘拐などの様々な暴力から、子ども自身が自分を守るための知識や技能 (スキル) を身につけるためのプログラム。

CAPメンバーが学校などへ出向き、ロールプレイ (寸劇) を交えながら、参加型のプログラムを提供している。

CAPとくしまは今までに、徳島県内の保・幼・小・中・高校・特別支援学校・児童養護施設・児童館・学童保育などで690回のプログラムを実施し、1万9千人以上の県民にプログラムを届ける。